

交換留学体験記：アーカンソー大学  
人間科学部人間科学科 4年 大城 久李亜

暑さが続く日々から一転、肌寒い季節になり、ここアーカンソーでも紅葉がみられる季節になりました。10月、11月はハロウィンのイベントがあったり、ルームメイトとまったく過ごす時間が多くありました。残りわずかな留学生活をどこか寂しくも感じますが、この期間の思い出を振り返っていきたいと思います。

### 1. ハロウィン

ハロウィンは日本と同様、アメリカでもとても盛り上がっていて、自分の住んでいる周りもデコレーションで色どられていました。学校でも、当日は数名の生徒が仮装をして授業を受けていたりなど、日本の大学では見られないような光景も見ることができました。学内では様々なハロウィンイベントが開催されていて、図書館の受付でお菓子を配っていたり、ifriendと呼ばれるプログラムではパートナーのアメリカの生徒とピクニックをして、カボチャペインティングをしたりなど思い出深い日を作ることができました。



ピクニックでのジャックオーランタン



近所の装飾



スーパーマーケットのハロウィンケーキ

### 2. ルームシェア

ここでは自分がルームシェアをしていて感じたことについて書きたいと思います。私自身、

ここに来て初めて家族以外の人と場所をシェアするという経験ではじめは不安でした。一番の利点としては、寂しさを感じないということです。仲良くなれれば、一緒にクッキングしたり、週末は一緒にでかけたりなど、留学生にとっては知らない土地でコミュニティを作るうえでとてもいいきっかけだと思います。また、車を運転できる子がスーパーマーケットに連れて行ってくれたりもして、大きな荷物があるときにはとても助かっています。

もちろん、価値観などの違いで衝突する場面もあります。例えばルームメイトの中にとってもきれい好きな子がいた場合、少しの汚れなどでも注意されたりすることもあるので、そこは気を使わないといけない部分もあったりします。逆に、前期に住んでいたところのルームメイトは何日間か食器をためるといったこともあったり、洗濯機に服を置きっぱなししたりすることもありました。なので本当に人によりけりです。もちろん自分の本当に嫌だと思ったことは伝えつつも、ある程度妥協するスキルも誰かと暮らすうえでは必要なのかなと感じます。



ルームメイトとランニングした時の写真



スペインの子が作ったオムレツと中国・日本のハーフの子が作ってくれた餃子



共同のキッチン